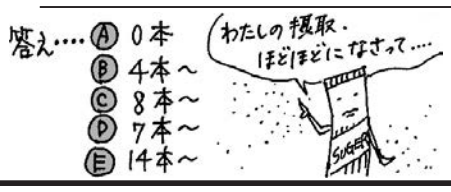
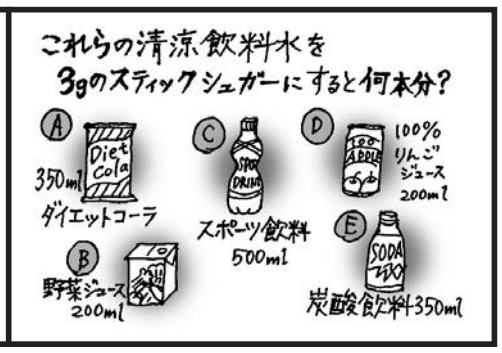
2020
4
April　卯月

コラーレ倶楽部通信



コラーレ倶楽部通信新聞部
〒938-0031　富山県黒部市三日市 20 番地　コラーレ
TEL. 0765-57-1201　FAX. 0765-57-1207



会場コーディネート「花ゆう悠の会」にオジャマ

自然が醸し出す息吹の音色

毎年恒例の「アクティブグループ・パーティー」をはじめ、「ドレミの会ティータイム・コンサート」や「パフォーミングアーツのエントランス」などの会場を素敵な空間に彩るのは「花ゆう悠の会」の手によるものです。

コラーレで１月に開催された「十亀正司クラリネットコンサート」。マルチホールへと続くカウンター、ホール入口から会場内ステージ脇、客席のテーブル上へと、自然の息吹が伝わってくるような、清々しい姿の草木や野花が生けられていきます。

開場の時間までに手際良く作業をされるのは、会場コーディーネート「花ゆう悠の会」のお二人です。最近はこのお二人で活動されているということで、「素材集めなど大変なことも多いのでは？」と伺うと「私たちの家の庭や畑、その辺りの山からと案外手に入りやすいのよ。友人や知人からもいただいたりと、不思議と集まってくるのよ」と、代表の谷嶋さん。「私たち二人は、もう長い付き合いだから、生けるのもあ・うんの呼吸。そんな感じで、お互いの相乗効果で生み出されるものなのかな。ここは空間が広く使えるし、流派など関係なく大好きな草花を自由に生けられるのが楽しくて！　だから、長く続けてこられたのかしらね」と手を動かしつつもお話してくださいました。この時に飾られた草花は、冬の植物。南天、千両、椿、松などが揃っていました。特に、蝋梅（ろうばい）からふんわりと漂う芳香が初春を直に感じさせてくれました。あぁ、癒される……。自然の気配と一緒に楽しむコンサートは、また格別です！

「花ゆう悠の会」のモットーは「自然の中で育ったものを、あるがままに生かす」こと。手元に集まってくる素材たちは、威勢の良い枝っぷりのもの、小柄だけど凛としているもの、花盛りは過ぎてしまったけれど、まだまだ華があるもの……それぞれの個性が、お二人の手にかかると魔法がかけられたようにシャキッ！　と見事なアンサンブルを奏でます。

この会が彩る会場で公演を観る機会があれば、コンサートと共に自然が醸し出す息吹の音色も感じてみてはいかがでしょうか？

ホッと心和む、野の花のコーディーネート。これからもたくさんの場面で出会えることでしょう。　（TEXT ＝ P）

客席のテーブルの上で、いつも迎えてくれる野花たち。今回は寒椿が淡い色合いで華を添えてくれていました。

花器に使われていた器はとてもアンティークなもの。昔、祝宴の席で赤飯が盛られていたそう。器ひとつで個性的な雰囲気に。

さり気なく、かつ存在感をもって。スポットライトは浴びずとも、ステージ上の出演者を引き立てる名脇役です。

マルチホール入り口手前のカウンターでも、野花がお客さまをお出迎え。蝋梅の花がフワリと芳香を放っていました。

今月のひとりごと

百人一首大会！

小学校時代、授業の一環で行われていた百人一首大会はクラス全員を熱くさせ、熱烈に繰り広げられた。トーナメント制で上位を決めていくシステムで、私もメラメラと燃え、必死に暗記し試合に臨んでいた。

百人一首は上の句の最初の出だしが重要である。百枚の内、「む」「す」「め」「ふ」「さ」「ほ」「せ」から読み始める札は１枚ずつしかない。なので、読み手が「むらさめの」の「む」を読んだ時点で取る札が分かる。逆に「あさぼらけ」「きみがため」「わたのはら」から始まる札は２枚ずつあり、その次の文字を聴くまでどちらか分からないものもある。２文字目で分かる札、３文字目で分かる札など決まり字というものが存在する。テレビでよく見る競技かるたの試合で、一瞬でパーンと取るのは読み手の最初の言葉を瞬時に判断し、且つ取るべき札がどこにあるのかを覚えているからである。

最近、百人一首をやる機会があった。私の場合、上の句から順に全部読まないと下の句にまで辿りつけない。それ以前に、並べている時点でひらがなだらけの取り札に目がチカチカしてきたではないか。結果は５枚でボロボロだった。相手も覚えたばかりだと言っていたが、判断する早さが上手であった。

しかし昔上位にいきたくてメラメラと燃えていた闘志が、数十年後ポッと少し点火したことは嬉しかった。

＜ひさかたの光＞

アクティブグループ

「アクティブグループ」とは、コラーレ倶楽部会員の中で、特に意欲的・積極的に活動するメンバーが集う、いわば「サークル」みたいなもの。自己表現したい人、裏方に興味のある人、ボランティア活動したい人……何かしたくてムズムズしているいろんな人たちが、それぞれ自分の得意分野を持ち寄って無形の情熱を有形に変えていくグループです。

アクティブグループ活動場所として、専用の部屋を無料で開放しています。ミーティングなどに、お気軽にご利用ください。興味を持ったサークルがあれば、コラーレまでご連絡ください。

コラーレ倶楽部アクティブグループ
４月の活動予定

大人のピアノサークル　ドレミの会
ピアノを楽しんでいます。特に指導はありません。
▼４月４日㈯・11 日㈯ 各日 13:00 ～ 17:00

弦楽サークル　楽屋ストリングス
ヴァイオリンを楽しみましょう。初心者大歓迎。
▼４月毎週㈪ 各日 19:30 ～ 22:00

アコギを楽しむ会
アコースティック・ギターを楽しみます。見学歓迎。
▼ミーティング：４月５日㈰ 19:00 ～ 22:00
４月 19 日㈰ 19:00 ～ 22:00

消しゴムはんこづくり　ぺったん
１回だけの参加も大歓迎。初心者もＯＫ、材料費必要。
▼４月 16 日㈭ 19:30 ～ 21:00「桜」

コンテンポラリーダンス　ミラージュゲート
年齢・性別・経験を問わず、ダンスを楽しみましょう。
▼４月９日㈭ 19:00 ～ 21:00

コラーレ倶楽部通信新聞部
この倶楽部通信を毎月作っています。お仲間募集中。
▼ミーティング：４月９日㈭ 19:30 ～ 21:00

お問い合わせ：コラーレ（tel. 0765-57-1201）

コラーレ倶楽部　鑑賞レポート

こんなン観てきました！

コンサート、お芝居、映画、美術展など、倶楽部会員からの鑑賞レポートが届きました。

パフォーミングアーツのエントランス
十亀正司 クラリネット コンサート

2020年1月18日／コラーレ

クラリネット奏者、十亀正司さんのコンサートに行ってきました。コラーレにゆかりの深い石橋尚子さんのピアノも聴けるとあって期待も膨らみ、そして実際に、それはそれは素敵なコンサートでした。

まず、クラリネット２本とピアノによる演奏で一気に音楽の世界に誘(いざな)われ、次の『だんだん小っちゃく』と言う曲は、クラリネットの管を下から一つずつ外していくに従って高音に。ついに５分割された楽器はコンパクトなケースにマジックのように収まりました。次は民族楽器、トルコの『ズルナ』とアルメニアの『ドゥドゥク』の登場です。見た目はそんなに変わらないのに音色はまるで正反対。心が鼓舞されるような勇ましい感じ、かたや、心に染み入るような素朴で優しい感じ。リード楽器の奥深さが伝わります。

「これはまだまだ楽しいことが待っていそう……」ドキドキワクワクです。そして、登場したのが生のニンジン。「えっ？」エプロン姿での軽妙なトークと同時進行で電動ドリルを駆使して出来上がったのが『キャロリネット』。『エーデルワイス』と『大きな古時計』の演奏は驚きの美しい音色でした。最後には、一瞬椅子から腰が浮きそうなびっくりの演出。スコットランドの伝統衣装キルトを身にまとい、コスチュームも完璧な十亀さんが迫力の音色のバグパイプを演奏しながら背後から登場されたのです。なんて楽しいんでしょう。

このコンサートに先駆け、市内の小中合わせて４校に出前コンサートに行かれたとのこと。生徒さんたちの素直な驚きや喜びが目に浮かびます。将来、当地から一流の音楽家が世に出て、インタビューに「私が音楽家を目指した原点は、あの日学校で十亀さんの演奏を聞いた時です」と答える、そんな夢のような光景を想像して一人にやけたのでした。　＜Y. S／60代女性＞

コレクション展　ひかりと風と、夜のあいだ

2020年２月／黒部市美術館

２月とはいえ、まばゆいばかりの陽の光が、急ぎ春の風を吹き込んで、空を大きくかき混ぜている。そんな陽気の中、黒部市美術館を訪れた。

今回は黒部市美術館が1994年の開館以来、近現代版画作品の収集の中から「ひかり」「風」「夜」をキーワードに作品を紹介するとあった。モノクロの中で見られる光の表現や、季節が感じられる風の表現。そして、夜という静かな時間の中で生まれる光の表現など、絵画とは異なる多彩な版画作品の魅力を楽しむことができた。

入館して目に飛び込んできたのが、日本の銅版画技法の第一人者、長谷川潔（1891～1980／横浜生まれ）の手による「玻璃球のある静物」と題された作品。氏は19世紀、写真技術の発達によりフランスにおいて消滅の危機にあった銅版画技法の復興を行い、独自の表現に昇華し高く評価された作家と説明がなされている。入館の前に黒部のまばゆいばかりの山々を眺めた後、突然白と黒のモノクロの世界へ。どこまでも深く深く底の見えない黒。この20㎝四方ほどの作品が醸す時空のゆがみにどんどんと吸い込まれそうになっていく。絵画や写真の黒はいくらかでも反射があるので黒がこぼれると表現していいのか、存在感や質感が感じられるが、これはそれとは全く逆の感覚。漆黒のなかに忽然と白く浮かぶ鳥と静物は精神的観念が生む幻想の光のように見える。

続く作品もまるで時を旅しているかのような不思議な版画の世界。館外に出てまたまばゆい世界が飛び込んできた。有限と無限の世界を行き来した不思議な体験であった。　＜モノクロー夢な世界へ／男性＞

プリンセスＱＰ ズバリ占う！あなたの４月の運勢

【１月生】物事が早く進行しすぎる星回り。不意のトラブルに注意。恋愛運良好。金運絶好調。仕事は辛い決断あり。

【２月生】心のふれあいがある星回り。恋愛は神経質になりがち笑顔で吉。金運好調。効率重視が仕事運アップの鍵。

【３月生】人に影響されやすい星回り。人は人と思う様に。恋愛は思い込みに注意。金運平穏。仕事は良い情報を得て吉。

【４月生】何事もスムーズに進む星回り。恋愛運絶好調。金運絶好調。仕事は人に振り回される、しかし得るものあり。

【５月生】集中力が散漫な星回り。想像力でカバーし吉。恋愛は急ぐ必要なし。金運平穏。仕事はネットワークが大切。

【６月生】人気が高まる星回り。恋愛はロマンチックに過ごせ吉。金運好調。仕事は環境の変化を積極的に受け入れ吉。

【７月生】優しさに付け込まれる星回り。契約など避けて。恋愛運低迷。金運良好。仕事は違うメンバーとの交流が吉。

【８月生】嬉しさで胸が震える出来事がある星回り。恋愛運絶好調、決断の時。金運好調。仕事は集中力がダウン注意。

【９月生】自信がなくなる星回り。何とかなるで吉。恋愛運低迷。金運は忘れ物に注意。仕事は先輩や上司に相談して吉。

【10月生】成長のチャンス到来の星回り。未来へ一歩進む。恋愛運吉凶混合。金運低迷。仕事はライバルが味方になる。

【11月生】人に振り回されそうな星回り。あれもこれもと頑張らない。恋愛運低迷。金運平穏。仕事は集中してやるが吉。

【12月生】運気上昇。恋愛運は諦めていた愛が戻りそう。金運絶好調。仕事運絶好調、加速度がつき仕事が楽しくなる。

編集後記

■「世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし」等と詠まれた桜だが、総理の桜の見る会騒動で冬から喧(やかま)しかった。花に罪はなし。開花の早まった今年の桜、ゆるゆると楽しみたい。　＜布袋＞

■４月と言えば桜の季節ですね。桜と言えば何といっても代表格はソメイヨシノ。日本で植えられている桜のおよそ80%がこの桜なんだそうです。そして驚くなかれ、すべて最初の１本から生まれたクローンなんですって。　＜あまりにも一本木!?＞

■新年度は出会いの季節。初対面の人に緊張して失言してしまう人もいます。あと２年で定年の先輩女性に「お若いですね」と言うつもりが「若作りですね」と言って、周りを凍り付かせた……うわお！　やっちゃったね。　＜み＞

■老後に向けて体力づくりをしてみようと微努力を始めてみた。体育センターのトレーニング室で行われている約45分間のプログラムに参加すること、２回目。自宅じゃ絶対やらないキツさが、超筋肉痛を招いてなかなか良い。さて、続くか、自分!?　＜パペポ＞

■最近着ていた服は青系が多かった気がする。好きな色でもあるが、冬だったから無意識に落ち着いた色を選んでいたのかしら。さあ、春になったのだから爽やかな明るい色の服で気分を高めよう！　＜月がふたつ＞

■新型コロナウイルスの影響でマスクが無くなり、トイレットペーパーやティッシュまでもが。場所によっては、オムツまで無くなっていた。買い占めして転売していた方もいるが、モラル的にどうなのかな？ と思う。早く普通の状態に戻って欲しいですね。　＜どら＞

コラーレ倶楽部の広場

わたしのたび紀行

プリンセスクルーズで東南アジア大航海（Part. ２／全５回）

ベトナム中部のチャンメイ入港

（プリンセスクルーズには、昨年2019年に乗船されました）

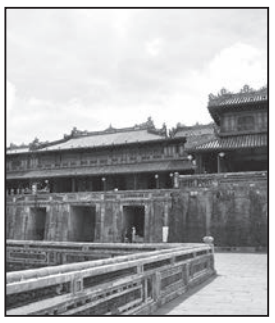
■ 中国・厦門（アモイ）からベトナム・チャンメイに

ベトナムは面積約33万㎢（九州を除いた日本の面積に相当）、人口は9,467万人（2018年）で人口の90%をキン族が占める。2003年に北部のハノイ、ハロン湾と南部のホーチミンを旅したが、今回訪問する、ダナン、ホイアン、フエなどがある中部は、訪れてみたかった地である。日本との時差は△２時間。10月のこの時期は雨期にあたり、スコールを覚悟した。

■ 港の南方にはダナンとホイアン

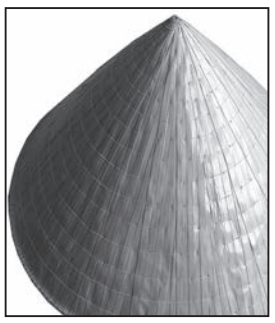
「雷雨100%」で心配した天気は予報が大きく外れ、晴れ時々曇りの好天候に恵まれた。船は９時にチャンメイに入港。チャンメイ港は、ベトナム中南部の都市ダナンとフエの中間に位置している。港湾施設は建設途上なのか、港周辺には建物も見当たらず。チャンメイ港から南に行くと、ベトナム戦争時に南ベトナムと米空軍の拠点軍事基地だったダナン、さらにその南には日本が鎖国前の16～17世紀にかけて東南アジアで日本人が活発な交易活動を行った折に、日本人が居留した町のひとつであるホイアンがある。

■ 古都フエの地を歩く



９時半にチャンメイ港から北にバスで出発、フエを目指す。途中、路上にはユーカリ・オイルを売る店が点在する。休憩含め２時間で、ベトナム最後の王朝・阮(グエン)朝が置かれた古都フエに到着。フォーン川がフエを新市街と旧市街を分け、２本の橋がつなぐ。北岸は国家を支える政治的都市、南岸は首都の生活を支える生活都市。ゆったりと流れるフォーン川のほとりに王宮、寺院、皇帝廟と風格ある建築物が点在する。川のほとりにある王宮の門をくぐる。建物の多くは、ベトナム戦争で破壊されて残っていないが、太和殿は1970年に再建された。顕臨閣、長生殿も巡る。

フエ王宮からバスで20分、ティエンムー寺に着く。1601年創建の高さ21ｍ余の７層８角形の塔があり、名は「幸福と天の恵み」を意味するトゥニャン（慈悲）塔。寺の中心にあるダイフン寺は釈迦を祀る。



昼食は、市内のホテルでベトナム料理バイキング。午後は、トゥドゥック帝廟に。阮朝で最も在位期間が長かったトゥドゥック帝の別荘で今は皇帝の墓所。広々とした別荘風の落ち着いた造りで絵画的な美しさである。大きな蓮池があった。ベトナム帽子（ノンラー）の店を見るが、ベトナムの伝統的なこの三角錐の麦わら帽子の輪の数は16。身体にある穴の数、男性７と女性９の穴の数の合計を意味するとの説明だが、16の穴とは？　帰路途中の店で緑の餅菓子とベトナム産ジャコウネコのコーヒー豆を購入するが１kg＝20＄と格安だった。

■ 次の目的地、“海の桂林”ハロン湾へ

フエやホイアンは時間に余裕をもって滞在したい場所であり、船旅のオプションでの短い滞在時間が惜しまれる。今度来る機会があれば、連泊でゆったり過ごしたい。チャンメイ港に戻り、乗船。次の寄港地は、ベトナム北部のハロン湾だ。

［次回もプリンセスクルーズの旅つづく］

＜Ｋ・Ｎ／60代男性＞

新聞部からのおてがみ

今月は「花ゆう悠の会」を特集しました。野花の個性を生かしたアレンジがお得意ですが、毎年アクティブグループパーティー等、花の少ない冬でも梅、水仙、蝋梅(ろうばい)といった香りで華やかに演出、会場の雰囲気を盛り上げてくださっています。花は野にあるように生けるのが基本、ボーっと見ていないでよく観察しましょうね。

ここで花好きの皆さんに質問です。花の香りはどこから香って来るのでしょう？　……香りは葉でできた糖が花びらで香り成分に変化して香るのだそうですよ。　＜か＞

コラーレ倶楽部通信新聞部

〒938-0031　富山県黒部市三日市20番地　コラーレ

TEL. 0765-57-1201　FAX. 0765-57-1207　info@colare.jp